

近世人物誌

やまと新聞附録第十

錦織剛清

錦織剛清氏、旧中村藩士、其
 旧主誠胤君、疾病の爲め監中、憂
 苦せらるゝ言ふを聞き、概然之を
 救ふ事と思ひ立、其邸内へ浸
 入して、遂に警官の聴く所となり
 随つてこの事の世に傳播せし、當
 時より有つて此義を唱ふる者、氏を人
 の故、旧主を自由の空氣を
 吸ひしる事能はむ、其後誠胤君、
 何等の都合ありて、本邸の願、狂院へ
 移され、依然監中ありしを、或る日
 氏之、浸入して、旧主を伴ひ出
 静岡地方へ趣き、一より忽ち世上の
 一問題となり、爲り、氏、家宅浸入の罪
 を以て、處刑となりたり、氏の目的の當
 不當、姑ら論ぜず、旧主と想ふ義氣
 於て、誰か感ぜざる者、あらん、是、於
 て、氏の處刑中、其家族、多少の金圓
 と寄贈と、寒を救ふ者、幾百人といふ
 知む、彼の新吉原町の如き、花柳艶美
 の街、或る氏の義氣を、銭券、氏の
 豫て、画を、鑑み、ふ、と、以て、本年七月
 り、粧飾せり、燈籠の繪を、氏に、託
 たり、向き、多し、なり



發行所 東京 京橋区 本町二丁目一番地 やまと新聞社
 持株者 奥隅依二
 編輯人 中野文彦

錦織剛清10号 文庫10-8617-10

早稲田大学図書館蔵 / Waseda University Library

